

《題字・森神紫陽》

## おかげさま運動

平成25年9月22日に秋のお彼岸に合わせて「花園会おかげさま運動」として女性部から「特別養護老人ホーム直川苑」へタオルが贈られました。

直川苑が開設してすぐに初代女性部部長の故吉内喜代さん（本年3月18日91才寂）の提案で「梅干しの施入」や「清掃活動」などが行われてきました。

活動は20年を過ぎた今でも続けられ、現在では女性部会員がそれぞれ持ち寄ったタオルを役員が届けています。

今年は入苑者の後藤東さんと廣瀬宏子さんが女性部を迎えてくれました。



安藤いつ子副部長・大竹琴美部長・廣瀬芳子事務局と入苑の廣瀬宏子さんと後藤東さん

### 第60号

#### 正定寺花園会広報

平成25年冬発行 発行所 一部単価135円(非売品)

檀信徒数 市内：324戸 市外：74戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syoji.com/> e-mail [shoji@saiki.tv](mailto:shoji@saiki.tv)

住職 小原南陽 閑栖 小原寿山

# 平成25年度秋季特別布教

平成25年11月18日（月）午前10時から紅葉が照る正定寺で「平成25年度秋季特別布教」が行われました。九州東教区第二部寺院の花園会員（運営・女性・青壮年の各部）61名と部内18ヶ寺の和尚さまがお見えになりました。

今年度は秋田県湯上市珣田川飯塚 開得寺住職 新野建臣師（65）を迎え推進テーマ『おかげさま』の題目で法話を賜りました。

午前9時30分から受付が始まり、10時に開会しました。

参加者で御本尊さま・無相大師さま・花園法皇さまに諷経を行い、更に第二部物故者の霊位のために回向しました。

宗務支所長挨拶・花園会長挨拶・女性部長挨拶・青壮年部長挨拶に続

き、坐禅を全員で行い更に生活信条を唱和致しました。

10時45分から新野建臣和尚さまのご法話を賜り、12時の閉会には「信心のことば」唱和してお昼をいただき分散致しました。

正定寺からは、小野永生総代・御手洗晴視総代・安藤廣美総代・小野浩伸役員・染矢豊喜役員・川野貴重役員・広瀬茂弘役員・柳井孝義青壮年部・大竹琴美女性部長・安藤いつ子女性部長・広瀬芳子女性部・林美喜枝女性部の12名が参加致しました。

又、男性役員は早朝から駐車場の整理をしていただき、おかげさまでスムーズに参拝者の迎え入れができて無事に平成25年度秋季特別布教を終える事ができました。



花園法皇のご宸翰を読み上げる新野建臣説教師さま



本堂で法話を聞き入る九州東教区第2部寺院の花園会員

## 第32回花園地方大会と第19回花園女性部総会

平成25年10月4日（金）

午前10時40から別府市亀の井ホテルで「第32回花園地方大会と第19回花園女性部総会」が行われました。

正定寺から大竹琴美部長さん・安藤いつ子副部長さん・廣瀬芳子事務局さんの女性部3名が出席

しました。九州東教区（鹿児島・宮崎・大分）から花園会の役員305名が集まり、基調講演では「おかげさま」と題して妙

心寺花園会本部長鮎川搏道師が講話をなされました。午後3時に研修を終えて各寺分散致しました。



参加した女性部役員



# 京都本山参拝とお伊勢参り



平成26年3月12日～14日（2泊3日）を予定しています。  
 新就職と共に京都妙心寺へ参拝しませんか。参加者を募集しています。  
 人数が増えますと参加旅費も安くなりますのでご家族・お友達をお誘いの上お申し下さい。  
 （参加者は正定寺檀信徒以外でも結構です。締め切りは2月15日です。）

## ご旅程表

**ご本山参拝と美しき春の京都と伊勢の旅** **お一人様 85,000円**  
 最小催行人数20名

日次	行程	宿泊地	食事
3/12 (水)	<p>正定寺8:00出発  <small>貸切バス</small> JAL2362 <small>貸切バス</small></p> <p>正定寺 ===== 大分空港 → 伊丹空港 =====                      8:00発 10:30 11:30 12:25 12:45</p> <p>==== 京都市内観光1日目 ===== ホテル(泊)</p> <p>京都市内観光では南禅寺や相国寺、                      二条城など見学を予定しております。</p>   <p>南禅寺 (イメージ) 二条城 (イメージ)</p>	京都市内 ホテル 泊 (予定)	昼:弁当 夕:宴会
3/13 (木)	<p>ホテル ===== 妙心寺 御本山行事ご参加                      6:30頃発 朝のお勤めを行って頂き、                      ご出発となります。[7:00～8:00予定]</p> <p>== 京都市内観光2日目 == 伊勢へ移動</p> <p>2日目は東映太秦映画村や京都御所                      など見学を予定しております。</p> <p>= 二見興玉神社・夫婦岩 = ミキモト真珠島 = ホテル(泊)</p>   <p>妙心寺 (イメージ) 夫婦岩 (イメージ)</p>	鳥羽周辺 旅館 泊 (予定)	朝:ホテル 昼:和食 夕:宴会
3/14 (金)	<p>ホテル ===== 伊勢神宮 外宮・内宮 ===== おかげ横丁散策・昼食 =====                      8:00頃発 JAL2367 <small>貸切バス</small></p> <p>===== 伊丹空港 → 大分空港 ===== 正定寺</p>   <p>伊勢神宮 (イメージ) おかげ横丁 (イメージ)</p>		朝:旅館 昼:和食

天候や交通状況の関係で、予定通りかないこともございますので、ご了承下さい。(JTB大分 担当: 牟田口)



# 鬼 餓 施 大 門 山

## 施餓鬼会の準備

毎年、9月21日には女性部が施餓鬼会の準備をしてくれています。

数時間に及ぶ分担作業は、五色紙を折ったり切ったりする方や施餓鬼供養袋に水塔婆や御幣を納めるかかりなど根気を要する作業ばかりです。

御幣は最後に竹にさして今年は350本の御幣を作りました。

檀家さんの手で水塔婆と御幣はお墓に供えられますが何気なくお供えしている水塔婆も二週間をかけて戒名が書かれ、御幣もたくさんの手を経て供養されています。



本堂の五色四十九院幡

御幣の準備



## 水卒塔婆や御幣

戒名が書かれた水卒塔婆は、名の由来のごとく本来は川に流し水供養したものです。よく見かける年回で使われる卒塔婆とは大きさや厚さが違います。

別名「経木卒塔婆」と言われ昔は教典（お経）を書いていたものです。

その後、施餓鬼法要などで使用され、戒名を記して先祖の供養を行うようになりました。

お盆と同じ先祖供養がなされるお彼岸の時に正定寺では「山門大施餓鬼法要」が行われます。この水卒塔婆は御幣（五色の幡）と共に現在には墓前にお供え致します。

御幣はご先祖を救ってくださる二十五菩薩を型取ったものです。水卒塔婆は墓前にお供えしてお参りするたびに水を掛け供養します。水の事を「閻伽」と呼び

中国では「供養」を意味します。

「施餓鬼法要」の事を「甘露法要」・「閻伽法要」・「水陸法要」等と呼び、お墓参りに撒くものを「水の華（小豆・米・野菜）」と言います。

又、お墓に供える水を「あか」と呼びます。お施餓鬼は水の字が付いたものが多く使われます。昭和57年頃は「江河内・神内・向船場・久留須・堂師・間庭」などいくつかの地域で「地区施餓鬼」が行われていました。

お盆の時期に各地域で施餓鬼棚をあつらえて座番を持ち回りして地域ぐるみで施餓鬼法要を行っていました。

平成10年頃「地区施餓鬼」を取りやめて現在の「秋のお彼岸」に全檀信徒にご案内して行われるようになったのが現在の山門大施餓鬼会です。

# 平成25年 秋 彼岸会



参拝者

平成25年9月22日（日）午前11時より参拝者100名と近隣の和尚さまをお迎えして秋の彼岸に山門大施餓鬼会を行いました。

長昌寺和尚・龍護寺和尚・仙床寺和尚・崇圓寺和尚・梅南寺和尚・瑞祥寺和尚・洞明寺和尚・天徳寺和尚の各ご住職にご足労をかけ無事に年中行事を終える事ができました。

今年には295檀家から600霊を超える供養があり、施餓鬼棚には水塔婆が沢山並びました。

天気も良く本堂には五色に荘厳された四十九院が境内からの風でゆっくり揺れていました

昔から信心の方々は本堂の五色幡が揺れると「供養されたご先祖さまが喜んでいる」と言います。



近隣の和尚さん



大分市からお参りの檀徒



五色の幡が飾られる

# 大寒大般若会のご案内

平成26年1月20日（月）  
午前11時より恒例の大寒  
大般若会が営まれます。

佐伯藩主・毛利伊勢守  
から賜った現在地に正定  
寺が再建された、元禄8  
年（1695）に第五世  
活門和尚が新春1月16日

に法要したのが正定寺大  
般若会の始まりとされて  
います。

現在では、1月20日の大寒  
に行われ、300年以上  
の間、厄除け法要として  
続いています。  
大般若轉讀を終えると

定例檀信徒総会もありま  
す。

檀信徒総会では米寿・新  
成人の披露もありますの  
でご家族揃って「般若の  
風（智慧）」をおうけに  
お参り下さい。



餅まき



大般若轉讀

## 厄除け（厄年・星祭り）の受付

平成26年2月4日立春から平成27年2月3日節  
分の間に誕生日が左記の満年齢になる方は厄年  
（本厄）とされています。「正月・五月・九月」のご  
祈禱月に古来より厄除け法要を行い、特に立春前  
の正月祈禱がその年の厄払いとされ盛んに行われ  
て来ました。

### 〈男子〉

昭和48年生（満41才） 平成2年生（満24才）

### 〈女子〉

昭和57年生（満32才） 平成8年生（満18才）

### 〈男女共〉

昭和29年生（満60才） 平成14年生（満12才）

### 〔本厄の方〕

厄年の御札は手書き札になりますので事前にお  
申し込み下さい。

祈願料は5,000円で木札・御守り・厄除け投  
げ餅はお寺が用意していま  
す。前もって必ずお寺に氏  
名・年齢の連絡をして下さい。  
厄除けの締め切りは1月15日  
です。

### 〔前厄・後厄の方〕

厄年前後の年が「前厄・後  
厄」となります。  
前厄・後厄の厄払いは大般若  
の当日に受付へお餅（年齢数）  
を持参して下さい。法要後に  
御守りをお渡し致します。



# 過去帳

過去帳は檀徒の命日・戒名・続柄などを記した和綴じ帳で、中には故人の事跡などが記されたものもあります。

亡くなった順に記入していく年表式なので家系図などは過去帳から判別することはできません。檀家のご先祖さまの家系図に近いデータベース

は、個々の仏壇にお祀りされている位牌や正定寺の位牌堂に安置されている過去帳位牌に納められています。

正定寺に現存する最古の過去帳は延宝二年（1674—339年前）からのものので現在に至るまで大切に保存されています。

最初に記された戒名は寛永三年（1626—387年前）11月14日に亡くなった仁田原 幸八先祖と在りました。又、苗字はいずれも明治以降にしか記されていません。

女性の名前は大正時代から記されるようになりました。

寺院に保管されている過去帳に記された方々が檀家のご先祖さまになります。

この戒名と共に故人の供養を行う行事が年忌法要です。

過去帳の中には「絶家（家が倒れた）」・「離檀（檀家を辞めた）」の戒名は墨で取り消し線が引かれて判別できなくされています。

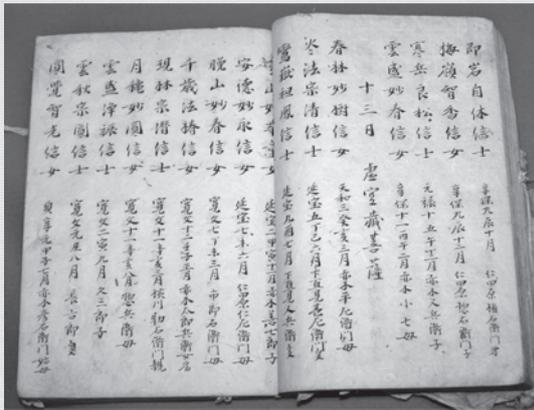
役所の戸籍簿と同じように取り消し線は使われていました。

現在では戒名の上に印鑑を押すだけになっています。

檀徒授戒記録簿としての役割が過去帳です。

一般に亡くなって授かる戒名も大切な故人の証ですが、御親化授戒のように生前授戒は仏教徒にとつてこの上ないありがたいものです。

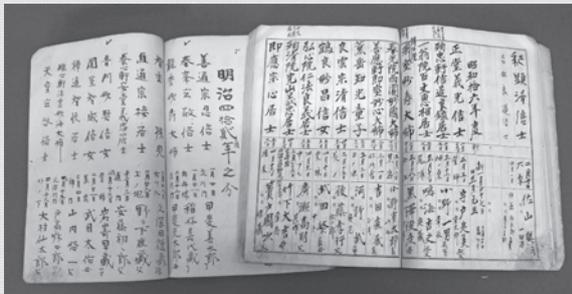
定期的に九州東教区での御親化授戒が開催されます。すでに正定寺では120名を超える方々に生前授戒「血脈（戒名）」が与えられています。



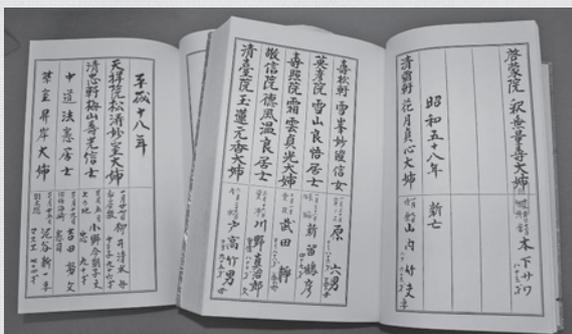
延宝二年の正定寺最古の過去帳



江戸時代の過去帳



明治・昭和の過去帳



昭和・平成の過去帳

## 直川中学 職場体験学習

平成25年8月7日から8日の二日間に直川中学校2年生女子の柳井さんが職場体験学習にやってきました。

朝8時〜午後4時30分までみっちりの「職場体験学習」です。

正定寺は明治7年（1874）に川原木小学校（現・直川小学校）の仮校舎となっていたので学校教育とは関係の深い寺院です。

先の戦時下では、沖縄・貝志頭学童疎開者（学童49名）の受け入れ先として地域の文化や教育の活動拠点として大きな役割を果たして来ました。

女子のお婆ちゃんの母校は、川原木小学校です。私（閑栖）も川原木小学校最後の新生徒でした。彼女の家は正定寺の檀家さんなので先祖さんはこのお寺で小学校を過こ

したかも知れませんが。

そんな話しをしながら私と一緒に拭き掃除を始めました。

とにかく暑いので外の掃除や学習はやめにしてもっぱら屋内の掃除をしました。

床の間にある古い硯を見つけて「これは何ですか?」、煙草盆を指して「これは何ですか?」と尋ねて来ます。

今では見ないものばかりでとても興味深いようでした。

トイレ掃除もしてくれました。本当によく気がつく女の子でした。

直川中学校2年生は全員で10名だそうです。そのうち男子が2名だそうです。

数日して丁寧なお礼の手紙が届きました。来年は誰が職場体験学習に来るのか楽しみです。



お盆を迎える掛け軸かけ



位牌堂のガラス拭き



広い廊下拭き



香炉の灰もきれいに



床の間の拭き掃除



抹茶こしにも挑戦

## 《法事の営み方》

### ① 《招待法事》

自宅に和尚さんを招いて行う法要

- \* 年忌の塔婆があります。
- \* 家族・親族の焼香があります。
- \* 仏壇の前で読経します。
- \* お墓にお参りします。

### ② 《寺参り法事》

お寺にお参りして行う法要

- \* 年忌のお位牌をお寺に持参します。
- \* 位牌堂で読経し焼香いたします。
- \* 供華・供果・供菓などのお供えは施主にお任せしています。
- \* 年忌の塔婆をお渡しいたします。

### ③ 《上げ法事》

お寺の本堂で一同会してお参りする法要

- \* お寺に位牌を持参して本尊の真前で読経します。
- \* お墓参りがあります。
- \* 供華・供果・供菓などのお供えが必要です。
- \* お霊具膳はお寺が用意します。
- \* 施主は一同にお斎膳を用意します。

### ④ 《施餓鬼法事》

自宅で行う禅宗でもっとも大きな法要

- \* 自宅で行う施餓鬼を行います。
- \* 僧侶が5名お参りして全てが定まっています。
- \* 自宅に縁側がないと法要が行えません。
- \* 年忌を迎える方だけではなく、ご先祖代々の塔婆もあります。
- \* 本堂で行う事もできます。



## 《法要の営み方》

### ア 《通常法要》

命日の数日から数ヶ月前に行う一般的な法要

- \* 塔婆があります。
- \* 法事は上記の①～④の方法で行います。

### イ 《預修法要》

故人の年忌をあらかじめ行う法要

- \* 仕事や家族の都合で法要を早めなくてはならない場合
- \* 数ヶ月～1年程度の年月を早めて行います。
- \* 塔婆があります。
- \* 法事は上記の①～④の方法で行います。

### ウ 《延修法要》

故人の年忌を延ばして行う法要

- \* 仕事や家族の都合で法要を延ばさなければならぬ場合。
- \* 数ヶ月から1年程度月日を延ばして行います。
- \* あらかじめ命日までに塔婆をお墓に納めます。
- \* 法事は上記の①～④の方法で行います。

### エ 《命日法要》

故人の命日に合わせて読経する法要

- \* 毎月の亡くなった忌日に読経する月命日法要。
- \* 毎年の命日に読経する祥月命日法要。
- \* 月命日も祥月命日も年忌に関係なく行います。
- \* 塔婆はありません。

## 年忌以外の 供養の営み方

### ① 《開眼閉眼供養》

仏壇やお墓の供養

\* 新規の仏壇やお墓の建立の時に  
行います。

\* 仏壇の移動やお墓の移動の時  
に行います。

### ② 《理趣分供養》

自宅で行うご祈祷法要

\* 大般若を自宅で行います。

\* 住職が理趣分経を唱えます。

\* ご祈祷法要です。

### ③ 《永代供養》

絶家して全ての法要をお寺に  
依頼する法要

\* 位牌堂で読経致します。

\* 全ての遺骨・全ての位牌をお  
預かります。

\* お布施が定まっています。

\* 檀家以外の永代供養は行いま  
せん。

\* 住職が退山するまでご先祖さ  
まを供養していきます。

\* 甲う方継承者がある場合はな  
るべくご遠慮してください。

それぞれ《営み  
方》は年忌供養に戸  
惑う若い施主さんにも  
分かるように項目  
別にしました。

法要する場所がど  
こになっても、自宅  
の仏壇には「お霊供  
膳・団子」などをお  
供えしてお墓には  
「水の華」を用意しま  
す。

法事のお申し出は、  
お早くお願い致しま  
す。特に日曜・祝日  
は、法事が集中しま  
すので、お配りした  
年回表で命日の確認  
をして、お寺へ2ヶ  
月前迄には期日の打  
ち合わせ連絡をお願  
い申し上げます。

亡くなった家族やご  
先祖さまの追善供養を  
年忌・年回法要と呼び  
ます。



## 年忌法要の意味

### \* 祝い事は遅れても 年忌は遅れるな \*

亡くなった家族やご  
先祖さまの追善供養を  
年忌・年回法要と呼び  
ます。

十王信仰・十三仏信仰  
などを元に速夜法要か  
ら甲い上げとされる三  
十三回忌までの年月日  
に随って営む法要を年  
忌・年回と呼びます。

正定寺は五十回忌まで  
を一般檀家の年忌区切  
りとしています。

五十年忌を過ぎたご先  
祖さまのご供養は、  
「〇〇家先祖代々」と  
し永劫供養され絶家ま  
で行われます。言い換  
えれば、家内が盛んで  
あるから供養ができる  
事になります。

寺院建立に関係する  
朝廷の天皇や寺院の和

尚さんは、50年毎ごと  
に遠諱として法要が行  
われます。平成7年に

は花園法皇の650年  
遠諱でした。平成21年  
は本山妙心寺のご開山  
無相大師の650年遠  
諱でした。

正定寺からも平成7年  
には37名が平成21年  
には40名の方々がそれぞ  
れ法要に参列して焼香  
致しました。

初七日から百ヶ日ま  
での計8回を速夜法要  
(中陰供養)と言います。  
一周忌・三回忌・七回  
忌・十三回忌・十七回  
忌・二十五回忌・三十  
三回忌・五十回忌の計  
8回を年忌法要と言  
います。

速夜四十九日までは  
「白木の位牌」で百ヶ  
日以降は「本位牌」と  
なり、授けられた戒名

を讀み上げます。

速夜8回と年忌8  
回の合計16回が専ら  
故人だけの法要です。  
その16回は年齢や故  
人の忌日を考えると  
葬儀をつとめた喪主  
が、故人一人の年忌  
を全て行うのは極め  
て難しくなります。

葬儀を出した喪主が  
家族を甲う回数は一平  
均すると10数回とな  
ります。

そのうちに1年間で  
9回を終えますので、  
僧侶が喪主の前で追  
善供養の読経を唱え  
られる回数は一回忌  
が終わると数回とな  
ります。

昔から「祝い事は  
遅れても年忌は遅れ  
るな」と言うのはこ  
ういう事情や十王教  
典の教えからです。

典の教えからです。